スマート農業 ㈱farmo

報道関係者各位

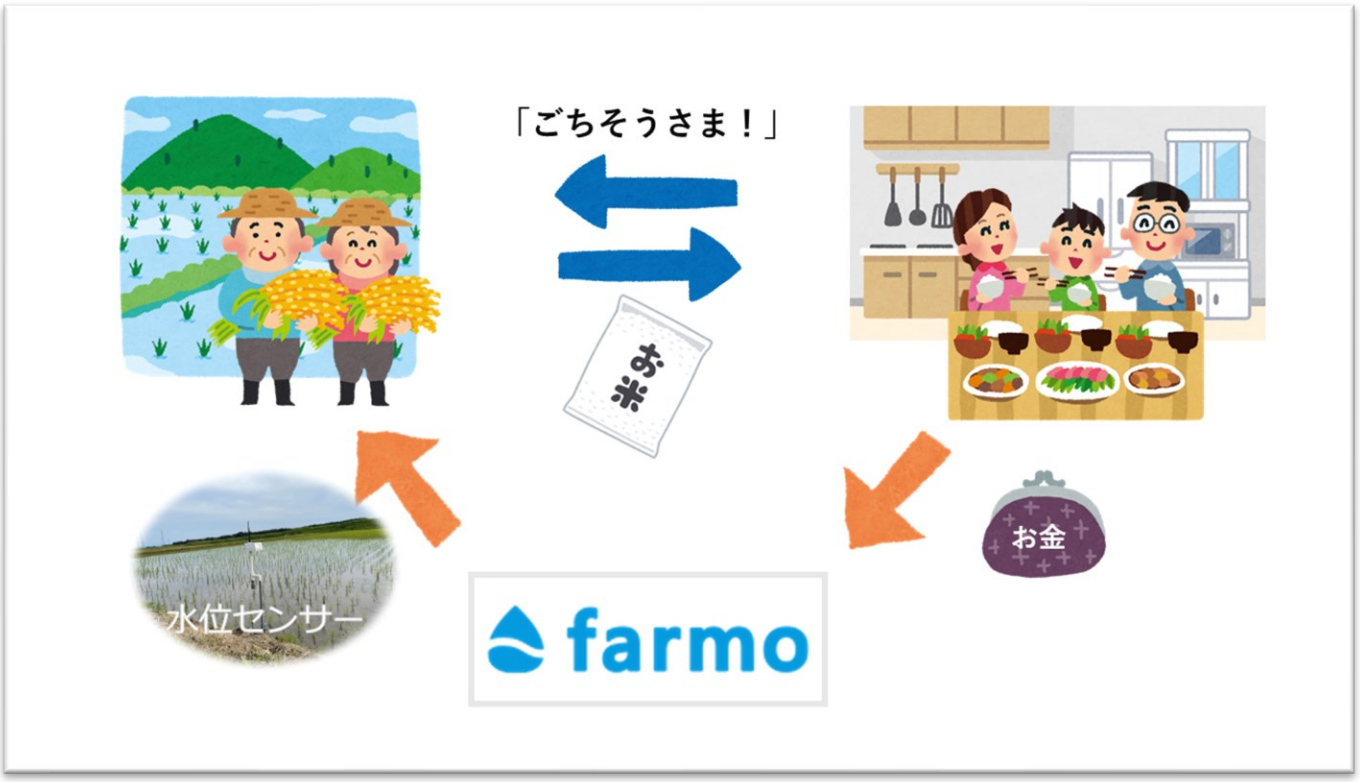
2025 年 6 月 25 日
株式会社 farmo

スマート農業ファーモ

米一俵と田んぼの水位センサーを“物々交換”

～農家と食卓がつながり新しい農業を創る共創プロジェクト始動～

IoT で農業課題に取り組む株式会社 farmo（本社：栃木県宇都宮市、代表取締役：永井洋志 以下「当社」）は、農家が生産する「米一俵」と当社の水位センサーを物々交換することで、農家と消費者が直接つながる新たな取り組み「一俵プロジェクト」を開始いたします。本プロジェクトにより、農家の管理負担を軽減しながら消費者には“顔の見える農”を体感していただくことを目指します。



メディア関係の方からのお問い合わせ先

株式会社 farmo 広報担当 小平真李
TEL：028-649-1740　PHONE：070-4406-2777　MAIL：kodaira@farmo.co.jp

■背景

近年、米価の高騰や備蓄米の放出による価格の乱高下、さらには詐欺サイトの出現など、米をめぐる混乱が続いています。その一方で、日本の食を支えてきた農家の努力や苦労が見過ごされつつあります。
当社は、スマート農業が高齢化や人手不足といった農業の課題を解決する鍵であると考えています。そこで生産者と消費者が互いに理解し支え合える仕組みとして、「米一俵」と当社の水位センサーを交換し、その米を生産者の顔とともに消費者に届ける新たなプロジェクトを企画しました。

■一俵プロジェクトとは

「一俵プロジェクト」は、農家が育てたおいしい米と農作業を省力化する当社の水位センサーを物々交換する仕組みです。

- 農家は金銭的な負担なく高価なスマート農機を導入可能
- 交換された米は消費者のもとへ届けられ、農家の「顔」が見える流通を実現
- 得られた収益で農地に LPWA 通信インフラを整備し、スマート農業の基盤を構築

この循環型モデルにより、生産者と消費者が直接つながる「共創型農業エコシステム」を目指します。

■展望

「一俵プロジェクト」では、以下の目標の達成を通じて農業と食の未来をともに育む社会を目指します。

- 農家の作業負担の軽減
- 米の生産性向上
- 農家が農業を持続できる価格の確立と定着
- 誰が作り、誰が食べているのかが分かる"顔の見える"食文化づくり
- 販売によって得た収益を活用した通信インフラ（LPWA）整備
- 生産者と消費者がつながる、共創型の農業エコシステムの形成

今後もより多くの農家と消費者を巻き込みながら、テクノロジーと共感で未来の農業を支える活動を展開して参ります。

■会社概要

代表者：代表取締役 永井 洋志
本社所在地：栃木県宇都宮市上欠町 866-1
設立：2005 年 11 月 1 日
資本金：1 億円（資本準備金：2 億 4160 万円）
経営理念：「知恵と技術と心で人を幸せにする企業」
地域や人々のため、常識にとらわれず考え抜く知恵と、能力を高め価値を創造する技術と、困っている人たちを救おうとする強い心で人を幸せにする企業を目指します。
主な事業内容：農業用 IoT 製品・サービスの開発・販売
HP：https://farmo.co.jp/

メディア関係の方からのお問い合わせ先

株式会社 farmo 広報担当 小平真李
TEL：028-649-1740　PHONE：070-4406-2777　MAIL：kodaira@farmo.co.jp